

施策評価シート(平成29年度)

(基本施策の大綱) 2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実

(基本施策) (3)高齢者の地域生活支援の充実

(評価担当者)

健康福祉部長 井分 信次

■基本施策が目指す姿

高齢者が、必要な介護・福祉サービスを受けながら、住み慣れた地域で安心して暮らしています。

■関連する分野別計画

亀山市高齢者福祉計画

■成果指標

		単位	現状値		実績値					目標値
					H29	H30	H31	H32	H33	
1	在宅医療を実施する市内医療機関数	機関	9	H27	10					15
2	総合事業で高齢者に通いの場を提供する地域の団体等の数	団体	-	H27	100					30
3	認知症初期集中支援チームの高齢者及びその家族への支援件数	件	1	H27	3					12
4										
5										

■市民アンケート調査

項目			現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [H32]	市民アンケートの考察
1	高齢者が生きがいを持って安心して生活できる環境が整っている	重要度	1.36			
		満足度	▲ 0.56			
2	高齢者への介護サービスが充実している	重要度	1.43			
		満足度	▲ 0.14			
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				
		満足度				
5		重要度				
		満足度				

■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んでいる	在宅医療連携推進協議会、多職種連携研修会の開催など在宅医療・介護連携体制の構築、認知症初期集中支援、認知症カフェの実施など認知症総合支援の体制整備、旧介護予防事業から介護予防・日常生活支援総合事業への移行などが図られサロン等通いの場が創出されるなど、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすために必要な“住まい・医療・介護・予防・生活支援”のサービスを切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」の構築が概ね進んだことから、総合判定をBとした。
反省点・課題	
在宅医療・介護、総合事業などにおける行政支援の体制は概ね構築できてきたが、今後は、高齢者本人とそれを取り巻く環境への対応として多様化・複層化する個別事例の支援体制の構築が課題となってくるため、子ども・高齢者・障がい者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現を視野に入れつつ、自立支援・重度化防止に取り組みながら、本格的な超高齢社会に対応するための地域包括ケアシステムの深化・推進に向け進めていく必要がある。	

今後の展開方針

これまで進めてきた在宅医療・介護、総合事業、認知症対応などにおける行政支援を更に推進するとともに、個別支援については、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)、生活支援コーディネーターの活用や地域包括支援センターでの総合相談体制を強化するなどして、地域における高齢者等の困りごとに対応する体制を構築する必要があることから、これまでの反省点・課題については、平成29年度中の新計画策定作業において整理しており、それらを踏まえつつ、平成30年度からの亀山市高齢者福祉計画において推進を図っていくものとする。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① 地域包括ケアの推進								
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	医療、福祉(介護)の連携として、在宅医療の相談支援窓口を医療センターに継続設置するとともに、ICTを活用した情報連携システムを導入した。また、医療センターの一般病床の一部を地域包括ケア病床へ転換、在宅医療支援を行う保険調剤薬局の誘致などを行った。			評価	総合事業では、従来の介護予防教室に加えサロン数が増加し、高齢者の通いの場の創出が進んだ。また、在宅医療連携システム「かめやまホームケアネット」の利活用は横ばいではあるが、多職種連携や医療面からの措置により地域包括ケアの体制整備の強化が進んだ。		
まずまず進んでいる								
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額[千円]	活動	成果
	17047	介護保険地域支援事業(総合事業)			主	26,497 / 25,803	A	A
	17048	介護保険地域支援事業(任意事業)			主	24,334 / 22,923	B	B
	17049	地域包括支援センター運営事業			主	37,378 / 34,973	A	A
	17050	地域包括支援事業(社会保障充実分)			主	19,599 / 15,935	B	B
事業の取組以外	内容						活動	成果

施策の方向② 介護予防の推進								
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)については、広域連合、鈴鹿市、亀山市の3者で旧介護予防事業を見直して事業再編し、平成29年度から制度運用を開始し、介護予防教室には延べ297回、7,816人が参加、出張出前教室は延べ76回開催し、1,571人が参加した。			評価	介護予防・生活支援サービス事業の訪問型及び通所型サービスの利用者は無かったが、一般介護予防事業における介護予防教室やサロン数が増加し通いの場の提供ができています。		
		まずまず進んでいる						
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17047	介護保険地域支援事業(総合事業)			主	26,497 / 25,803	A	A
						/		
事業以外の取組	内容						活動	成果

施策の方向③ 高齢者の生活と生きがいづくりの支援									
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】				
B	活動	日常生活において支援が必要な高齢者等ができる限り住み慣れた地域で自立した生活が継続できるよう、介護用品支給事業(おむつの支給)等各種サービスを実施した。また、生きがいづくりの支援として、シルバー人材センター、老人クラブ連合会などに補助支援した。			評価	高齢者の地域生活の自立支援を目的としているため、適正なサービスの利用量を測るのは難しいが、公的な支援(公助)としては適切に推進できていると考えられ、また、団体への補助支援も継続して支援できている。			
		まずまず進んでいる							
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額[千円]		活動	成果
	17048	介護保険地域支援事業(任意事業)			主	24,334 / 22,923		B	B
	17051	高齢者タクシー料金助成事業			主	21,000 / 19,002		B	B
	3009-2	地域団体支援事業(シルバー人材センター)			標	11,400 / 10,958		A	A
	3026	福祉事業(在宅高齢者介護支援事業)			標	1,786 / 1,565		A	B
	3027	給付事業(在宅高齢者介護支援事業)			標	2,068 / 1,053		B	B
	3025	団体支援事業(在宅高齢者介護支援事業)			標	3,301 / 2,817		A	B
	4014-2	害虫駆除対策費(駆除)			標	430 / 187		B	B
事業の取組以外	内容							活動	成果

施策の方向④ 認知症高齢者等対策の推進							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A		活動		評価			
順調に進んでいる		認知症高齢者とその家族の見守り支援として、認知症サポーターを平成29年度末までに通算2,547人養成し、認知症カフェを市内2か所(月1回)で開催した。また、医師会の認知症サポーター医や社会福祉協議会の職員と連携し、認知症初期集中支援チームによる支援や成年後見制度の利用相談支援を行った。		国の新オレンジプランに基づいて実施すべき、介護保険事業(地域包括支援事業(社会保障充実分)の認知症支援総合事業)を含め、市が実施すべき認知症高齢者支援施策を概ね実施できている。			
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17050	地域包括支援事業(社会保障充実分)		主	19,599 / 15,935	B	B
事業以外の取組					/		
	内容					活動	成果